

C-11 木綿以前衣料の研究（第1報）

鹿児島大教育 小林孝子

目的 合成繊維の開発、繊維製品の多量生産・既製服の普及や流行など、生活の近代化やマスコミによる情報交換の発達によって、急速に滅亡の途上にある民俗服飾のうち、とくに木綿以前の衣料といわれるものについて調査記録し、考察をこころみた。

方法 紡織の経験者である古老からの聞きとり、紡織作業の撮影記録および実技実験、現存の布について織の密度・色彩の測定など。

結果 材料の採集・紡織・染色・衣服の構成などについて、地域による類似と差異がみとめられた。木綿の出現がそれ以前の生活に与えた影響は偉大であったが、今や大量消費時代に至って、一見便利な生活と各種公害が隣接して渦巻く中で、あらためて木綿以前の衣料をかえりみたとき、風土と生活の有機的な相互活用が見出された。